

日本学術振興会
炭素材料第117委員会
第293回委員会議事録（案）

1. 日 時 平成22年4月16日（金） 9：30～15：30
2. 場 所 東京工業大学 大岡山キャンパス 西8号館11階大会議室
3. 出席者 47名 （順不同・敬称略）

委員 長： 寺井隆幸（東大）

主 査： 川口雅之（大阪電通大）、児玉昌也（産総研）

幹 事： 榎敏明（東工大）、鎗木裕（東京都市大）、稲垣道夫（北大名誉）、
安田榮一（東工大）、吉田明（東京都市大）、小林知洋（理研）

委 員： 阿久沢昇（東京高専）、安藤寿浩（物材機構）、新野仁（物材機構）、
岩下哲雄（産総研）、柴田大受（原子力機構）、白石稔（東海大学）、
蛭谷玄太（コバレントマテリアル／代理：太田幹生）、小田廣和（関
西大／代理：中川清晴）、京谷隆（東北大／代理：西原洋知）、
近藤純子（東洋炭素／代理：森下隆広）、向井紳（北大）、塩山洋
（産総研）、園部直弘（クレハ／代理：多田靖浩）、豊田昌宏（大
分大）、川野陽一（新日鐵化学／代理：水内和彦）、平原聡（三菱
化学）、尾崎純一（群馬大）、福田敏昭（東海カーボン／代理：
鶴田佳子）、山下良（新日本テクノカーボン／代理：菅原利夫）、
原田博文（日本カーボン／代理：牧田重史）

委員 外： 押田京一（長野高専）、木村脩七（東工大名誉）、中村和正（東工大）、
夏目勇（元東海カーボン）、菱山幸宥（東京都市大名誉）、
宮嶋尚哉（山梨大学）、山田能生（産総研）、大谷朝男（東工大）、
鈴木弘茂（東工大名誉）

同伴者他： 曾根田靖（産総研）、吉澤徳子（産総研）、太田道也（群馬高専）、
横田一道（東工大）、細田悠記（東工大）、高城順一（東工大）、
中島誉人（東工大）、高井和之（東工大）、藤間崇（東工大）

4. 本委員会議事経過

寺井委員長司会の下に本委員会を開催した。

4.1 前回議事録の承認

以下を訂正し、前回議事録（案）を承認した。

B 分科会議事録 117-292-B-2 部分の 4 行目 炭素被覆 → 炭素皮膜

同 7, 8, 11, 14 行目 CNNTs → CNTTs

C 分科会議事録 117-292-C-2 部分の 1 行目 担体 → 担体

同 2 および 5 行目 担持 → 担持

同 8 行目 Co, Pd i/酸化ダイヤモンド → Co, Pd, Ni/酸化ダイヤモンド

同 11 行目 「中川清晴、」を削除

4.2 第 1 1 7 委員会関係

(1) 委員長報告等

(a) 委員の異動等

- ・委員交代 北海道大学 退任：金野英隆氏 新任：向井紳氏（工学研究科 有機プロセス工学専攻 化学工学講座 教授）
- ・委員交代 関西熱化学株式会社 退任：安丸純一氏 新任：松平寛司氏（研究開発センター 主任研究員）
- ・委員交代 豊橋技術科学大学 退任：逆井基次氏 新任：武藤浩行氏（物質工学系准教授）
- ・退会申請 ジャパンエナジー株式会社 委員：二宮貴之氏
- ・退会申請 NEC トーキン株式会社 委員：羽藤之規氏
- ・退会申請 カーボンブラック協会 委員：楠元英樹氏
- ・退会申請 富田彰氏（委員外登録）

(b) 訃報

小林和夫氏（元委員、長崎大学名誉教授）

(c) 日独セミナーについて

- ・ 第二回日独セミナーは以下の日程で準備を進めている。
9/20（月祝）観光・歓迎会、9/21（火）日独セミナー、9/22（水）会社見学（ドイツ側参加者のみ）日本側参加者は 117 本委員会・分科会。
- ・ 学振協力会特別事業（60 万円）に採択された。日独双方の旅費補助に使用可能。
- ・ 9/21 午前中または午後を 117 特別講演会と位置付ける。

(d) J-PARC（大強度中性子発生施設）の利用について

J-PARC に中性子+X線等の同時測定ステーションを建設する計画に関して、日本原子力研究開発機構(JAEA)と学振各委員会(117, 120, 123, 124, 169)との共同研究が4月より始まった。最初のステップは既存の原子炉・放射光を用いた逐次測定で、117委員会からの参加者は豊田委員と曾根田氏。新たな参加も募集している。

学振には上記委員会共同で、3年の時限付き委員会が設立され寺井委員長が委員として参加する。時限委員会の報告書は概算要求の基礎資料となる見通し。

(e) 次回以降の予定について

第2回(294回)[A, B, C] 7/23(金) 東京都市大学等々力キャンパス(会場担当: 吉田幹事)

第3回(295回)[B, C, A] 9/21(火)・9/22(水) 産総研臨海副都心センター(9/21: 117特別講演会及び日独セミナー、9/22: 本委員会及び分科会)(会場担当: 児玉幹事)

第4回(296回)[C, A, B] 11/19(金) 会場未定(会場担当: 寺井委員長)

(2) 分科会報告

(117-293-C-1) 機械的圧縮によるマイクロポーラス材料の細孔径可逆制御

○西原洋知、山本健太郎、糸井弘行、Somlak Ittisanronnachai、京谷隆(東北大多元研)

(117-293-A-1) 高熱伝導率材 Pyroid® HT の結晶構造

○菱山幸宥¹、吉田明²、鏑木裕³(東京都市大名誉教授¹、東京都市大工学部²、東京都市大総合研究所³、)

(117-293-B-1) 炭素化ポリイミドフィルムの電気抵抗

○阿久沢昇¹、柳川聖貴¹、中野悟司¹、竹市力²(東京高専¹、豊橋技術科学大物質工学系²)

4.3 報告事項

(1) 炭素材料学会関係

学会関係: 阿久沢委員(運営委員長)より以下の報告があった。

(a) 4月4日時点における会員数は1001名(正会員807名、学生会員194名)で賛助会員は54社59口となっている。

(b) 2月19日に行われたリチウムイオン電池に関するセミナーは60名の参加があった。

(c) 6月18日に京都で開催される先端講習会(リチウム電池負極)は企業による発表が7件予定されている。

(d) 学会賞は7月締切りである。

(e) 第48回夏季セミナーは上田(信州大繊維学部)で予定されている。

(f) Carbon2010に出席する35歳以下の若手研究者に対して、旅費の補助申請を募集してい

る（大学院生 4 万円、研究者 8 万円、5 月 17 日締切）。

(g) 第 37 回年会は 2010 年 12 月 1 日（水）から 3 日（金）に、姫路市市民会館で行われる。

(h) 第 38 回年会は 2011 年 11 月 29 日（火）から 12 月 1 日（木）に名古屋大学豊田講堂で行われる。

(i) 削除

炭素誌関係：鎗木幹事（編集委員長）より以下の報告があった。

(j) 243 号はグラフェン関連の小特集で、6 月に出版される見込み。

(k) 245 号の特集は炭素系薄膜の基礎と応用で 11 月に出版される。（5 月 6 日論文締切）

(l) 242 号から投稿規定と学会賞の規程を変更している。投稿は会員外でも可能となり、論文賞の選考対象となる。

(m) J-stage アーカイブにおいて間もなく論文検索可能となる見込みで、学会 HP 上からの検索は停止した。

(2) 国際会議関係

(a) 吉澤氏より、JST およびトルコ科学技術評議会が主催した日本-トルコ炭素セミナー（2010/3/18-19, Istanbul）の報告があった。日本からは 25 名の参加者があり、厚く歓待を受けたほか、トルコ側の参加者は 200 から 300 名と関心の高さが窺われた。

(b) 稲垣幹事より Carbon2010 (2010/7/11-16, Clemson University, South Carolina, USA) 以降の開催国は中国(2011)、ポーランド(2012)、ブラジル(2013)まで決定しており、2014 年はアジアで行われる見込みであることが報告された。

(以上)